

内閣総理大臣 安倍晋三様
防衛大臣 小野寺五典様
米国大統領 ドナルド・ジョン・トランプ様
在日米軍 四軍調整官 ローレンス・ニコルソン様

幼児の生命に危険を及ぼす可能性のある
飛行物からの落下物の危険回避義務違反に対する抗議声明

12月7日 午前10時20分ごろ、宜野湾市野嵩の普天間バプテスト教会に付属する緑ヶ丘保育園のトタン屋根に、プラスチック製の筒が落下した。けが人はいなかったが、園庭で遊んでいた園児の横の建物の屋根に落下したものである。その直前に米軍の大型輸送ヘリコプターCH53が飛行しており、この米軍機から落下した可能性が高いと見られている。しかもこの落下物は、回転翼の状況を確認するために取り付けられている機器の容器である可能性が高く、同機器には放射性ストロンチウムが入っているとのことである。このことは、決して看過できない非常に危険なことであり、私たち日本バプテスト連盟理事会として、日本国政府及び米軍沖縄駐留4軍司令官に対して強く抗議をする。

これまで米軍機が関わる事故は、沖縄において多発しており、本年5月には、米軍嘉手納基地所属のF15C戦闘機が重さ2.3キロ、長さ約20センチ、幅約13センチの部品を紛失した。また、直前の11月末には、嘉手納基地に暫定配備されている最新鋭ステルス戦闘機F35Aが訓練飛行中に高さ約30センチ、長さ60センチ、重さ約450グラムのパネルを落下させる事故があった。過去に目をやると、1965年には、読谷村で米軍のパラシュート投下訓練中に小型トレーラーが民家近くに落下し、小学5年生の女児が亡くなっており、1972年には宜野湾市の沖縄国際大学に米軍機から燃料タンクが落下した。2004年にはGH53が沖国大に墜落し、昨年12月には名護市の沿岸にオスプレイが墜落している。そして今年10月にはCH53が東村の民間地に不時着し、炎上した。

これらの延長上に今回の事故はあり、駐留米軍の整備能力に欠陥があることは歴然としており、米軍基地が沖縄に存在するかぎり危険の除去は不可能であると言わざるを得ない。また、米軍には、第一に尊重されるべき地域住民の生命に対する尊厳の意思が欠如しており、非人道的な基地の本質がますます明らかになった。

米兵による性暴力など、沖縄では永年に亘って多くの基地被害が引き起こされており、そこに暮らす人々と自然に与える傷と痛みは深まり、また広がり続けている。

私たち日本バプテスト連盟理事会は、今回の落下物事故の発生に厳重に抗議するとともに、このような生命の尊厳に敵対する行為の即時中止と共に、沖縄の米軍基地の撤廃を、日本国政府並びに米国政府に求める。

2017年12月12日

日本バプテスト連盟理事会